

概要

環境省環境研究総合推進費「S-8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」の一環として、温暖化影響・適応策に関する研究あるいは地域での適応策の実装について、情報共有、人材交流等を行うことを目的とし、「気候変動適応社会をめざす地域フォーラム」(略称:適応地域フォーラム)を開催します。

同フォーラムは、今後の地域・自治体における温暖化影響と適応研究、及び適応策の一層の促進に資するため、温暖化影響・適応策に関する研究、あるいは温暖影響・適応策に関する計画立案や進行管理等のPDCAについて、ノウハウの共有、人材交流、普及啓発等を行うことを目的としています。

全体会合の2回目となる今年度の会合は、S-8研究の成果である気候変動の地域影響の将来予測結果を活用する「簡易推計ツール」、あるいは昨年度、長野県等で実施された適応策の検討を踏まえて作成した「適応策ガイドライン」の紹介をさせていただくとともに、気候変動影響・適応策に関する地域での実践事例について、情報共有と意見交換をさせていただきます。

この会合は、S-8研究に参加する研究機関、地方自治体の行政部局と研究機関、地球温暖化・適応策に先駆的に取り組む関連機関等を主な対象として開催します。

最寄り駅からのアクセス

- 【JR線】総武線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】都営新宿線:市ヶ谷駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】東京メトロ有楽町線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】東京メトロ東西線:飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】東京メトロ南北線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】都営大江戸線:飯田橋駅下車徒歩10分



法政大学 市ヶ谷キャンパス
スカイホール (ボアソナード・タワー 26階)

東京都千代田区富士見2-17-1 〒102-8160
TEL:03-3264-4177

「気候変動適応社会へ、地域からの改革」

気候変動適応 シンポジウム



ForumCCAS
Japan Local Forum for
Climate Change
Adaptation Society

2012
11/15 木
10:30~

参加費
無料

会場: 法政大学 市ヶ谷キャンパス
スカイホール (ボアソナード・タワー 26階)

<http://www.adapt-forum.jp/>

対象 地方自治体、地方研究機関、適応策に関心がある研究者・行政関係者・事業者・NPO等
定員 150名程度
(定員になり次第、締め切らせていただきます。申込はお早めに)
申込先 法政大学地域研究センター 温暖化適応プロジェクト
FAX 03-3264-5229 E-mail tekio@ml.hosei.ac.jp

主催: 法政大学

「S-8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」

共催: 国立環境研究所

後援: 申請中

気候変動の影響は、将来の影響であるとともに、既に顕在化しています。平均気温の上昇、強い雨の増加等は、洪水被害や農作物の気候被害、生息生物の変化、熱中症等の増加等をもたらし、私たちの生命や財産に危機を及ぼし始めています。顕在化している被害に対して、各行政分野で既に対策がとられていますが、今後の気候変動を考慮すると十分だといえるのでしょうか。

S-8研究では、気候変動影響の予測データを解析し、将来影響を見通した適応策のあり方を検討しています。影響を観測しながら状況に応じて対策を柔軟に見直していく順応型管理、また気候変動の影響を顕在化させる社会経済的な脆弱性に関する要因の改善といった、新たな視点からの適応策を検討しています。

また、気候変動の影響を受けやすい弱者への対策、ステークホルダーとの情報共有による主体的な取組みの促進、公助・互助・自助を組み合わせた多重性のある対応など、地域の抵抗力や耐久力・回復力(レジリエンス)を高める取組みも考慮する必要があります。

本シンポジウムでは、気候変動影響に関する最新の研究の到達点を俯瞰するとともに、今後の気候変動適応社会のあり方と気候変動政策の課題を考えていきます。多くのみなさまのご参加をお待ちしています。

S-8研究代表 茨城大学教授 三村信男

S-8地域総括リーダー 法政大学教授 田中 充

開催挨拶 環境省

(10:30~)

第1部 気候変動影響と適応策を取り巻く政策と研究の動向

(10:40~)

報告1 S-8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究プロジェクトの中間報告
三村信男(茨城大学)

報告2 国際的な適応策の検討動向と国内研究
原澤英夫(国立環境研究所)

報告3 気候変動適応の哲学と戦略
安原一哉(茨城大学)

報告4 地域における適応策検討ガイドラインVer.1
白井信雄(法政大学)

討論1 会場を交えた質疑応答・意見交換

〈昼食・交流タイム〉

簡単な立食形式 (会費制1000円程度)

第3部 パネルディスカッションと意見交換

(15:25~)

テーマ: (仮)気候変動影響・適応策の実装における科学と政策の溝(ギャズム)を越えるために

コーディネイター: 田中 充(法政大学)

パネリスト: 三村信男(茨城大学) / 木村富士男(海洋研究開発機構) / 小松利光(九州大学)

田中信用(森林総合研究所) / 石郷岡康史(農業技術研究所) / 本田 靖(筑波大学)

登壇者調整中(環境省)

まとめ: 「今後の事業スケジュールと参加方法のご案内」 法政大学

第2部 地域における温暖化影響研究・適応策の事例報告

(13:20~)

報告5 長野県における適応策の研究と政策検討の状況
陸 斉(長野県環境保全研究所)

報告6 九州地方及び熊本県における適応策の検討成果と検討課題
清水智恵(九州地方環境事務所)

報告7 埼玉県における適応策の検討状況
鶴見 恒(埼玉県)

報告8 自治体の視点からの適応策の考え方
市橋 新(東京都)

報告9 気候変動リスクと適応策をめぐるステークホルダー会議の設計
馬場健司(電力中央研究所)

報告10 市民参加型モニタリング及びリスクコミュニケーションの情報プラットフォーム
福井弘道(中部大学)

討論2 会場を交えた質疑応答・意見交換

〈小休憩〉